

教育研究上の目的

児童教育学科は、教育に関する基本的な知識と指導技術を確実に習得させるとともに、これらを活用し、学校教育の諸課題を解決する能力を獲得させる。同時に、本学と連携する教育委員会や学校等と協同し、教員としての実践的な指導力を学生に獲得させる。特に、大学と地域の学校等での実体験を通じた往還的な学びや経験をもとに、教員として必要な資質・能力を鍛錬し、学校教育が抱える現代的な諸問題に対処できる実践力を身につけた教員を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

児童教育学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 教員のあり方（教員の使命感、豊かな人間性、教養、コミュニケーション能力、学校教育に関する諸法令、学校の組織と服務）について理解している
2. 各教科等における実践的な指導力（学習指導要領の理解、教材研究、教材解釈と授業づくり、単元指導計画の作成、指導方法・技術、教育評価、授業改善、特別支援教育、キャリア教育、プログラミング教育）を身につけている
3. 学級経営に関する知識・技能（学級づくり、生活指導、教育相談、保護者・地域との連携）を身につけている
4. 卒業後に円滑に教員としての仕事ができるよう、教職に関する学修を自ら統合し、教員として最小限必要となる資質や能力を身につけている

そのうえで、次の資質および能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

①知識・理解・技能（技法）

1. 子どもの成長や安全、健康管理に常に配慮して、具体的な教育活動を組み立てることができる
2. 子どもの特性や心身の状況を把握したうえで学級経営案を作成し、それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持っている
3. 教科用図書の内容を十分理解し、分かりやすく学習内容や学習活動を組み立てるとともに、子どもの質問に的確に応えることができる
4. 自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができる
5. 基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示を分かりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができる

②思考・判断・表現

1. 他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの役割・職務を遂行することができる
2. 組織の一員として協調性や柔軟性をもって校務の運営に当たることができる
3. 保護者や地域の関係者の意見・要望に耳を傾けるとともに、連携・協力しながら課題に対処することができる
4. 子どもの声を真摯に受け止め、健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができる
5. 板書や発問、的確な話し方など基本的な指導技術を身につけるとともに、子どもの反応を生かしながら、集中力を保ち、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる

③関心・意欲・態度

1. 誠実、公平かつ責任感を持って子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識をもって指導に当たることができる
2. 教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っている
3. 自己の課題に気づき、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている
4. 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身についている
5. 気軽に子どもに声をかけたり、顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができる

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

児童教育学科では、教員として最小限必要となる資質や能力を養うために、講義や演習、実技、学校インターンシップ、教育実習等を通して、教育学や教育理論と教育実践との往還的な学修を深める。そのなかで教育の原理や原則を現実の社会に適応させ、今日の社会において課題を発見し、解決していく基本となる態度や能力を養う教育課程を編成する。

各領域の学修過程は、次の通りとする。

◆教職基礎・教科教育学分野 教職の意義に関する科目

1. 教職の意義や可能性を講義、テキスト、演習を通して確実に理解し、自己の進路選択にいかす
2. 学校の価値や可能性を理解し、自己のなすべき職責を理解する
3. 教員としての資質や能力について理解し、自ら学び続ける力の基礎を養う

◆教職基礎・教科教育学分野 教職の基礎理論に関する科目

1. 教育学や教育理論を理解し、今日の社会を理解するための価値観を養う
2. 教育学や教育理論を理解し、そのなかから課題を発見し追究する力の基礎を養う
3. 教育学や教育理論を理解し、自己の課題を発見し、その課題を解決するための基礎力を養う

◆教職基礎・教科教育学分野 教育課程及び指導法に関する科目

1. 各教科や領域等における教育目標や教育内容を理解し、指導過程を構想することができる
2. 学校教育における授業の役割を理解し、子どもの考えや反応を生かした指導をする態度を養う
3. 教材や題材の役割を理解し、背景となる文化との関わりを踏まえ、教材研究を行うことができる

◆教職基礎・教科教育学分野 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目

1. ガイダンスの役割を理解し、子どもの背景を理解した上で、教育相談を展開する基礎を養う
2. 集団の機能と役割を理解し、子どもの実態に応じた生活訓練や生徒指導を行う基礎を養う
3. 学習指導と生徒指導の機能的な連関を理解し、学級経営に関するプランを構想することができる

◆教職実践分野 教育実習

1. 子どもの性格や行動を理解し、集団のなかでの遊びや活動を通し、子どもと交流することができる
2. 学校の責務や教員としての使命を自覚し、集団の一員として校務に携わることができる
3. 確かな学力を育む学習指導や生徒指導を行う基本が身についている

◆教職実践分野 教職実践演習

1. 教職履修カルテを通して、自己の学修課題を認識し、不足した知識・技能を補充する意識が持てる
2. 1. を通して、自己に必要なとなる教育理論の修得を行うことができる
3. 1. を通して、自己に必要なとなる教育技術の修得を行うことができる

◆教科専門分野 教科に関する科目

1. 教科の背景となる人文・社会科学の知見に関して、主体的に学ぶことができる
2. 教科の背景となる芸術・文化の知見に関して、主体的に学ぶことができる
3. 教科の背景となる環境等学際領域の知見に関して、主体的に学ぶことができる

◆教科・教職融合分野 教育の理論及び実践の応用に関する科目

1. 教科とその背景となる学問・芸術・文化等との接点に関する理解を深めることができる
2. 各教科や領域等の連続性や独自性を理解することができる
3. 最新の教育事情、教育技術に関する知識・技能を修得することができる

◆英語教諭資格関連分野 英語学に関する科目

1. 教科の背景となる英米文法に関する内容を理解することができる
2. 教科の背景となる英米音声学に関する内容を理解することができる
3. 教科の背景となる英米語表現に関する内容を理解することができる

◆英語教諭資格関連分野 英米文学に関する科目

1. 教科の背景となる英米文学史に関する内容を理解することができる
2. 教科の背景となる英米文学研究に関する内容を理解することができる

◆英語教諭資格関連分野 異文化理解に関する科目

1. 教科の背景となる異文化に関する理解を深めることができる
2. 教科の背景となる異文化間のコミュニケーションに関する知識・技能を修得することができる

◆演習

1. 教育学や教育理論に関する学修を深め、自己の学修課題に沿って、研究を深めることができる
2. 仲間との共同学修を通して、自己の学修課題を省察したり、他者へ建設的なアドバイスができる
3. 自己の研究課題を設定するための資料を収集し、自己研究課題が設定できるようになる

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

児童教育学科では、本学学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の精神に共感し、教員として明るく、しなやかで学び続ける意志を持ち、人間性が豊かでともに学ぶことを喜び、努力を惜しまず向上し続ける学生を求めている。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 小学校教員免許や中学校・高等学校教員免許（英語）の取得希望者で、取得に必要な高校までの教科・科目の基礎を身につけている

2. 教育に必要な幅広い教養を身につけるために、高校までのすべての教科・科目に関する基礎的な知識を身につけている
3. 会話表現や文章表現に必要な国語の基礎的な知識を身につけている

②思考力・判断力・表現力

1. 与えられたテーマについて必要となる情報を想起し、整理し、自分の考えを伝えることができる
2. 自己を分析し、他者に対して自己についてアピールすることができる
3. 質問や発問に対して臨機応変に答えることができる

③主体性・多様性・協働性

1. 自ら考え行動することができる
2. 集団の中で他者の考えを受け入れながら自分の考えも他者に伝えることができる
3. 課題に対して他者と協働して取り組むことができる